

# 保温保冷技能者能力評価基準

令和2年3月17日認定

建設技能者の能力評価制度に関する告示（平成31年国土交通省告示第460号）及び建設技能者の能力評価制度に関するガイドライン（平成31年3月29日）に基づき、保温保冷技能者の能力評価基準（以下「本基準」という。）を以下のとおり定める。

## 1. 能力評価基準の策定主体

一般社団法人 日本保温保冷工業協会

## 2. 能力評価基準を策定する目的

建設キャリアアップシステムに登録・蓄積される情報を活用して、保温保冷技能者の技能について客観的な評価を行うことにより、

- ①評価結果を活用して、取引先や顧客に対して技能水準を対外的にPRすることを通じて、価格交渉力の強化を図り、技能に見合った評価や処遇を実現する
- ②キャリアアップに必要な経験や技能を明らかにすることで、保温保冷技能者のキャリアパスを明確化し、若年層の入職拡大・定着促進を図る
- ③保温保冷技能者を雇用する専門工事企業の評価（「専門工事企業の施工能力等の見える化」と連動させることにより、高い技能を有する保温保冷技能者を育て、雇用する企業が選ばれる環境を整備し、人材育成と処遇改善の好循環を生み出すことを目的とする。

## 3. 能力評価基準の対象とする職種

本基準は、保温保冷工事に従事する技能者を対象とする。

具体的には、建設キャリアアップシステムにおける技能職種の大分類「保温工」(47)小分類「保温工」(01)・「熱絶縁工」(02)・「防露工」(04)・「耐火被覆工（湿式）」(05)・「耐火被覆工（乾式）」(06)・「耐火被覆工（塗装）」(07)とする。

本基準に基づき能力評価を受けた技能者を、「保温保冷技能者」と称する。

## 4. 能力評価の段階

能力評価はレベル1からレベル4までの4段階とし、各レベルにおける技能者像は以下のとおりとする。

レベル1：初級技能者（見習いの技能者）

保温保冷工事業についての基礎知識を有するとともに、保温保冷工事に関する工具・機械等の安全な使用方法を身に付け、上司の指示を受けなが

ら作業の補佐ができ、手順を確認しながら作業ができる初級技能者。

レベル2：中堅技能者（一人前の技能者）

保温保冷工事業について、現場での経験が3年以上あり、工程や工事の作業手順に沿って、標準的な精度・速さで正確な保温保冷施工ができる。

レベル3：職長として現場に従事できる技能者

保温保冷工事業について、現場での経験が7年以上あり、他の技能者に対して施工手順等を指示するなど、作業管理、品質管理、工程管理及び安全管理ができる。また、中堅技能者よりも一段と速く、正確に保温保冷施工ができる。

レベル4：高度なマネジメント能力を有する技能者（登録基幹技能者等）

保温保冷工事業について、現場での経験が10年以上あり、全体工程の把握・管理を行い、元請事業者や他職種との調整を行うことができる。また、高度な知識・技能を有すると共に、多くの技能者を統率し、工事を計画通りに遂行することができる。

## 5. 各レベルの基準設定

各レベルの基準は、建設キャリアアップシステムに蓄積・登録される就業日数、保有資格、職長・班長としての就業日数を用いて設定する。

就業日数及び職長・班長としての就業日数は、建設キャリアアップシステムにおける技能職種のうち大分類「保温工」小分類「保温工」・「熱絶縁工」・「防露工」・「耐火被覆工（湿式）」・「耐火被覆工（乾式）」・「耐火被覆工（塗装）」に従事した就業日数を評価する。

また、建設技能者の能力評価制度に関するガイドラインに基づき、建設キャリアアップシステムに蓄積された215日の就業日数を1年と換算して扱うものとする。

保有資格については、建設キャリアアップシステムにおいて、その保有等について確認できるものに限る。

各レベルの基準は、以下のとおりとする。

### （1）レベル4の基準

#### 【考え方】

就業日数については、登録保温保冷基幹技能者講習の受講要件を踏まえ設定する。

保有資格については、登録保温保冷基幹技能者、優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）受賞者のいずれかと設定する。

職長・班長としての就業日数については、登録保温保冷基幹技能者講習の受講要件を踏まえ設定する。

## 【基準】

①から③までを満たしていること。

### ① 就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が2,150日（10年）以上であること。

### ② 保有資格

ア) 及びイ) までを満たしていること。

ア) 以下に掲げる資格のいずれかを保有している又は表彰を受けていること。

- ・登録保温保冷基幹技能者（講習修了証の期限が切れている場合は除く）
- ・優秀施工者国土交通大臣顕彰

イ) (2) の②及び(3) の②に定める資格（レベル3及びレベル2の基準となっている資格）を保有していること。

### ③ 職長・班長としての就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された職長としての就業日数が645日（3年）以上であること。

## (2) レベル3の基準

### 【考え方】

就業日数については、1級熱絶縁施工技能士試験の受験資格要件を踏まえて設定する。（ただし、2級熱絶縁施工技能士に対する1級熱絶縁施工技能士試験の受験資格要件（2級熱絶縁施工技能士合格後の実務経験（2年以上））は考慮しない。）

保有資格及び職長・班長としての就業日数については、4. 能力評価の段階に示すレベル3の技能者像に適合する要件を踏まえて設定する。

### 【基準】

①から③までを満たしていること。

### ① 就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が1,505日（7年）以上であること。

### ② 保有資格

ア) 及びイ) を満たしていること。

ア) 以下に掲げる資格をいずれも保有していること。

- ・1級熱絶縁施工技能士
- ・職長・安全衛生責任者教育（職長教育を含む）

イ) (3) の②に定める資格（レベル2の基準となっている資格）を保有していること。

### ③ 職長・班長としての就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された職長または班長としての就業日数の合

計が 215 日（1 年）以上であること。

### （3）レベル 2 の基準

#### 【考え方】

就業日数については、就業日数が 645 日（3 年）以上と設定。

保有資格については、中級技能者として保温保冷施工を工程や工事の流れに沿って正確にできる必要があり、2 級熱絶縁施工技能士取得者又はそれと同等の技能者として設定する。

#### 【基準】

①及び②を満たしていること。

##### ① 就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が 645 日（3 年）以上であること。

##### ② 保有資格

以下に掲げる資格を保有していること。

・ 2 級熱絶縁施工技能士

または下記の資格のうち 3 つ以上

✓ 足場の組立て等作業主任者技能講習又は足場の組立て等作業従事者特別教育

✓ 高所作業車運転技能講習又は高所作業車運転特別教育

✓ 玉掛け技能講習又は玉掛の業務特別教育

✓ 低圧電気取扱業務特別教育

✓ 酸素欠乏危険作業特別教育

✓ 石綿等が使用されている建築物等の解体等の作業、封じ込めまたは囲い込みの作業特別教育

### （4）レベル 1 の基準

#### 【基準】

建設キャリアアップシステムに技能者登録をされ、かつ、レベル 2 から 4 までの判定を受けていない技能者とする。

各レベルの基準の内容については、別表に一覧として示す。

## 6. システム利用開始前の経験の評価

5. の規定にかかわらず、就業日数及び職長・班長としての就業日数については、当面の間、建設キャリアアップシステムに蓄積された情報に加えて、所属事業者等による経歴証明により証明された日数も活用する。

具体的な活用方法については、保温保冷技能者能力評価実施規程に定めるところによる。

## 7. その他

保温保冷技能者能力評価実施規程に定める評価実施の開始時期よりも前に、一般財団法人建設業振興基金に対して技能者登録の申請を行った者であって、登録保温保冷基幹技能者の資格を有しているために一般財団法人建設業振興基金からゴールドのキャリアアップカードを交付された者については、レベル4の基準を満たしているものと取り扱う。

【別表】レベル1～4の基準の一覧

	就業日数	保有資格	職長・班長としての就業日数
レベル4	就業日数が 2,150 日（10年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●登録保温保冷基幹技能者</li> <li>●優秀施工者国土交通大臣 顕彰</li> <li>・レベル2、レベル3の基準に示す保有資格</li> </ul>	職長としての就業日数が 645 日（3年）以上であること。
レベル3	就業日数が 1,505 日（7年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1級熱絶縁施工技能士</li> <li>・職長・安全衛生責任者教育</li> <li>・レベル2の基準に示す保有資格</li> </ul>	職長又は班長としての就業日数の合計が 215 日（1年）以上であること。
レベル2	就業日数が 645 日（3年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2級熱絶縁施工技能士</li> <li>●下記資格のうち3つ以上</li> <li>✓足場の組立て等作業主任者技能講習又は足場の組立て等作業従事者特別教育</li> <li>✓高所作業車運転技能講習又は高所作業車運転特別教育</li> <li>✓玉掛け技能講習又は玉掛け業務特別教育</li> <li>✓低圧電気取扱業務特別教育</li> <li>✓酸素欠乏危険作業特別教育</li> <li>✓石綿等が使用されている建築物等の解体等の作業、封じ込めまたは囲い込みの作業特別教育</li> </ul>	
レベル1	建設キャリアアップシステムに技能者登録をされ、かつ、レベル2から4までの判定を受けていない技能者		

※ ●印の保有資格については、いずれかの保有で可